

## 今月のトピックス 「タバココナジラミについて」

### 1. 三重県のタバココナジラミは

タバココナジラミはトマト、ウリ類、イチゴ、ナス等多くの農作物を加害し、一部の農作物にはウイルス病を媒介するため、対策に悩まされています。世界で 40 以上の系統があり、三重県では次の系統が見つかっています。

バイオタイプ B・・・一時期シルバーリーフコナジラミと呼ばれました

バイオタイプ Q・・・2005 年に日本に侵入

バイオタイプ JpL・・・在来系統。農作物はほとんど加害しません

バイオタイプ B と Q では形態上の差異は認められませんが、薬剤に対する感受性が異なります。バイオタイプ Q では多くの薬剤で殺虫効果が低下しています。三重県では 2005 年に採られた個体がバイオタイプ Q と確認され、現在はほぼ全域に広がっています。



図 1 タバココナジラミ成虫と卵



図 2 タバココナジラミ幼虫

### 2. 媒介するウイルス病は

タバココナジラミは多発生するとすす病を併発して果実等をよごしたり、トマトの果実やカボチャの葉に着色異常症を発生させます。しかし一番問題となるのは、少発生であっても次のようなウイルス病を媒介することです。

トマト黄化葉巻病 (TYLCV)・・・近年のトマトの重要病害

イスラエル系統 (長崎系統)・・・おもに九州、より激しく発病

マイルド系統 (静岡系統)・・・関東以西。三重県はこの系統

ウリ類退緑黄化病 (CCYV)・・・ウリ類。三重県では未確認です



図 3 トマト黄化葉巻病の病徴

新葉では葉縁の退色、巻葉

展開葉では黄化、縮葉

開花しても不稔

### 3. 防除対策は

トマト黄化葉巻病は発生してから防ぐことはできず、タバココナジラミをハウスに入れない」「増やさない」「ハウス外に出さない」ことが重要です。次の耕種的な対策が有効です。

0.4mm 以下の防虫ネットの設置

収穫後の蒸しこみ

ただし、ネット設置による通気性の悪化により施設内が高温となったり、葉かび病等が多発したりします。

ネオニコチノイド系や合成ピレスロイド系殺虫剤でバイオタイプ B に効果があるのにバイオタイプ Q には効かない薬剤があります。同じ系統の薬剤を連続して使わないようにしてください。また殺虫効果が低いと感じたら使用薬剤を変更してください。